



## 企画展 極める!江戸の鑑定

2023.6.3(土)▶7.17(月・祝)

### 展覧会概要

美術品の真贋や価値を評価する「鑑定」には、画題や製作者を見極める専門的な知識が必要とされます。江戸時代には、刀剣の本阿弥家をはじめ、刀装具の後藤家、書蹟の古筆家、絵師の狩野家・住吉家、茶道の宗匠たちによって、それぞれの分野の鑑定が行われていました。

本展では、鑑定の対象となった作品と折紙・極札・箱書といった鑑定書から、鑑定の様子に迫ります。

### 展覧会基本情報

- ◆展覧会名 企画展 極める!江戸の鑑定
- ◆会場 蓬左文庫展示室
- ◆会期 2023年6月3日(土)～7月17日(月・祝) ※会期中展示替あり
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日 ※但し7月17日(月・祝)は開館、翌18日(火)は休館
- ◆観覧料 一般1,600円 高・大生800円 小・中生500円  
※20名様以上の団体は一般1,400円 高大生700円 小中生400円  
※毎週土曜日は高校生以下入館無料
- ◆主催 徳川美術館 名古屋市蓬左文庫
- ◆協力 名古屋市交通局

### プレス内覧会

2023年6月2日(金) 午後1時30分～3時(1時受付開始)

会場：徳川美術館 講堂

内容：展覧会担当学芸員による概要解説の後、自由取材

※ご一緒に同時期開催の特別展「よそおいの美学」もご取材いただけます。

## 一 鑑定のおこり

書や絵画をはじめとする文物は、古くからその出来に応じて優劣が評価・品評されてきました。現代の我々になじみのある、真贋や作者の判定を行ったり、評価額を提示したりする鑑定がはじまったのは、市場経済が発達した室町時代の頃ようです。文物が財産として交換され、さらに貨幣での支払いが浸透していく中で、文物の価値を見定める必要や価値を保証する必要が生じたことが背景と考えられています。

## 二 作者を極める！

桃山時代にはさまざまな鑑定家が登場します。刀剣を専門とする本阿弥家や筆跡を専門とする古筆家<sup>こひつ</sup>がその代表に挙げられるでしょう。その鑑定の結果は、外題や折紙、極札など、様々な形態の証書にしたためられました。定評があることを意味する「折紙付き」や「極め付き」といった言葉は、これらの鑑定書に由来します。

鑑定の重要な目的の一つは、作者の判定でした。一般的に、作者とその作品への評価が定まると、その人気と値段が高まっていきます。鑑定においても同様に、作者が誰であるのかが、作品の評価額を大きく左右してきました。



【画像1】重要文化財 刀 無銘 郷義弘 名物 五月雨郷  
黒田長政・徳川家光・徳川光友（尾張家2代）ほか所持  
鎌倉時代 14世紀  
徳川美術館蔵



【画像2】  
本阿弥光室折紙  
元和七年六月三日（刀 無銘 兼光 付属）  
江戸時代 元和7年(1621)  
徳川美術館蔵



【画像3】  
古筆手鑑「蓬左」  
奈良 - 江戸時代 8 - 17世紀  
徳川美術館蔵

## 三 分類を極める！

鑑定に際しては、製作地が中国・朝鮮・東南アジアか、あるいは日本のどこなのか、製作された時代がいつなのか、どのような分類に該当するのか、といった判定も重要でした。茶の湯道具では、室町時代にはすでに茶碗・茶入・漆器の分類がなされ、江戸時代には抹茶を入れる容器として大切にされていた茶入を時代・産地別に分類する「窯分」が考案されました。

当時の価値観や見識に基づいた分類の多くは、今日にも分類や名称の一部に引き継がれていますが、現代の科学的分析に基づく分類や名称との齟齬も少なからずあり、多くの課題を残しています。

## 四 品質を極める！

「折紙付き」という言葉が、確かなモノであると保証されたこと、転じて世間での定評を示すように、鑑定にはモノの価値を保証する側面が大きくありました。鑑定における保証とは、作品が優れていることを意味します。茶道の宗匠が名称や銘・伝来などを箱に書き付ける「箱書」や、刀剣の切れ味を示す書付などには、品質を保証する意味合いが大きく見受けられます。

## 五 評価額を極める！

鑑定の結果の中でも最もわかりやすい評価の基準が、値段を示す評価額でした。値段は、個々の主観や感性に左右される造形性の評価と異なり、誰にとっても明快で、モノの価値を比較することが容易となります。評価額は、大名家においては將軍へ献上する刀剣の基準ともなるほか、鑑定の結果の中でも特に重視されていました。

## 六 <sup>きわ</sup>窮める鑑定

作られた当時からかなりの年月を隔てると、判定の基準や参考とすべき作品が十分に残っていないなど、鑑定の決め手に欠くことがよくあります。写真や科学分析の技術の発達が進んだ現在においても、基準が不明瞭な作者や分野が多く残されています。

また、人気のあった作者の作品などは、後世の模作や贋作<sup>がんさく</sup>が横行しやすく、江戸時代にも多くの鑑定家の頭を悩ませてきました。実際の作者や関係者が歿した後は、判定の裏付けが難しくなってしまうほど周到に作られた贋作も多く、現代にも多く紛れ込んでいるだろうことは否めません。

## イベントのご案内

### 土曜講座 鑑定の諸相

講師：学芸部マネージャー 加藤 祥平

日時：6月17日（土）午後1時30分～午後3時（開場：午後1時）

会場：徳川美術館 講堂

定員：80名（事前申込制で既に満席 / 当日空席があった場合のみ先着で受講可）

受講料：800円（入館料別途要）

### 学芸員の見どころトーク 極める！江戸の鑑定

トーク：学芸部マネージャー 加藤 祥平

日時：6月25日（日）午後2時～2時30分（開場：午後1時30分）

会場：徳川美術館 講堂

定員：80名（当日会場にて先着順）

料金：無料（入館料別途要）

## 広報画像ならびに視聴者・読者プレゼント提供

企画展「極める！江戸の鑑定」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。

画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会の御招待チケット（非売品）を、1媒体5組10名様にご提供いたします。



<下記内容をメールまたは電話、ファックスにてお知らせください 利用期間：～2023年7月17日（月祝）まで>

希望画像番号

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する ・ 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

#### [ご利用にあたっての注意事項]

- 画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- 部分アップのトリミングは可能ですが、色変更等の加工はご遠慮ください。
- 二次利用不可です。
- 画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- 内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



徳川美術館

The Tokugawa Art Museum

〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017

TEL：052-935-6262（10時～17時受付）

052-935-8222（営業時間外受付）

FAX：052-935-6261

担当：吉川 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 d.takeuchi@tokugawa.or.jp